

県の藻場回復^{ビジョン}説明

JF長崎市新三重漁協 県内に「見守り隊」

【長崎】長崎県水産部漁港漁場課は1日、長崎市のJF長崎市新三重漁協で第3回「県藻場回復検討協議会」(座長・横山純興水産部参事監)を開催、県内各地に「藻場見守り隊」を設置して10年後に2000鈔の回復を目指す県の藻場回復^{ビジョン}案を説明したうえで、同漁協の藻場回復プランについて協議した。



担当者の説明に耳を傾ける橋本会長(右から4人目)……県の「藻場回復^{ビジョン}案」を説明し、同漁協の具体的なプランについて議論を深めた。同漁協で

会合には、委員を務める熊谷徹興水産部長、橋本牧漁港漁場新技術研究会長、荒川敏久水産土木建設技術センター長崎支所長ほか、県職員ら約30人が出席。主催者を代表して熊谷部長は「藻場回復は喫緊の課題。各漁協によるプランの策定と実践活動で成果を目指したい」とあいさつした。会合では、モニタリングと保全活動に取り組む藻場見守り隊を県内55か所に設置し、10年後に2000鈔を回復させ、県全体で1万鈔を達成する

今後の計画として、ムラサキウニのブランド化、未利用カンガセの食用化、イセエビ資源の回復に向けた四季藻場造成などに取り組みたい考えを示し、藻場回復プランへの反映に期待を寄せた。



藻場回復へ議論を深めた協議会

会合終了後、委員らは同漁協の活魚センターと前浜の状況を視察し、同漁協の取り組みを理解を深めた。